

ふたりのコラム

February 26, 2021

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

今週は、春を思わせるような暖かい日が続きましたね。寒の戻りもありながら、本格的な春へ、一步一步近づいているようです。さて、本日2月26日より、窯焚きが始まりました。子どもたちは、作品の焼き上がりを心待ちにしていることと思います。また、泥工房の方を初め、焼き物体験等で、作品を今回の窯に入れた方々も、どんな焼き具合になるのか楽しみにされていることでしょう。前回もお伝えしましたが、この穴窯は、電気でもガスでもなく、薪を3日3晩くべ続けて、焼成します。薪を集めて、割って、くべる……。そこには、たくさんの“人”の力が集まって、そして焼きあがります。

窯たきをみんなで行う（協働する）ことは……

目的を共有し、ともに力を合わせて行うこと……。窯焚きを行うことは、保護者、地域の方々、そして職員が、薪を集め、割って、くべる……。という作業を、焼き物を焼くために、ともに行うのです。

具体的には、お父さんスタッフ、もり組の有志保護者、泥工房（焼き物サークルの皆さん）、職員が、12月上旬から薪を割る作業を行ってきました。そして、窯焚き当日は、数時間ずつシフトを組んで、薪をくべ、次の人につないでいきます。この薪のくべ方が難しく、初めは炙り（温度を上げすぎてはならない）、その後温度を上げる（しっかり薪が燃えた状態を見てくべる）など、難しいコツがあります。それを、伝授しあって、例年の温度上昇記録グラフを見て、良い焼き具合になるように力を合わせていくのです。



子どもたちの作品がよく焼けるように……。ご自身が作った作品がよく焼けるように……。子どもたちのために頑張るぞ……。などなど。そこに集うみんなが、作品がよく焼けることを願って、または、炎がきれいだ、この炎に癒される、と感じながら……。この窯たきは、みなさんのそれぞれのプラスの思いが重なりあって成り立っていると思います。

このように“協働”する大人の姿を見ることは、子どもたちにとって、大切な学びの環境です。

子どもたちには、自分が生活する地域に関心を持ち、地域を大切に、いろいろな形で地域に発信する人になってほしいものです。幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも地域との連携の大切さがうたわれています。それは、私たち保育者が子どもたちにそのような体験の場を作っていくことはもちろんですが、子どもたちの周りにはいる大人たちが、“協働”することの大切さを感じ、伝えていくことも重要であると改めて感じました。

幼小連携プロジェクト

毎年お伝えしていますので、もうご存じの方も多いと思いますが、赤見小学校とあかみ幼稚園が幼小連携プロジェクト共同研究を行って、早6年目となりました。この研究を行うことのきっかけは、幼児期に大切にされなくてはならない「遊びを通した総合的な学び」から、時間割に基づく教科の「達成すべき目標に向かう学習」へ変わっていく段階で、大きな段差があることを感じたことです。前中山園長が、県教育委員会、市教育委員会とその実情を共有し、各教委の指導を受けながらこのプロジェクトを発足させました。まず、お互いのことを理解しあうということから始め、授業参観、保育参観、そして話し合いを行いました。スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの作成と実践を行い、緩やかな接続に努めてきました。そして、発信することで、重要性を共有してほしいと願い、またそれを教育委員会担当者も望み、佐野市教育会等で幾度か発表しました。今では、各校でも緩やかな接続がより良いものとなってきています。平成29年に学習指導要領が改定となり、「生涯にわたる生きる力の基礎を培うこと」を目指しています。



昨日、今年度の最後の研究会が行われました。

研究会では、相互参観を経て、感想や質問がかわされましたが、その中で特に興味深かったのは、「ルール」についてです。園では、鬼ごっこや、ドッジボールなどのルールを初めから完全に決めてしまうのではなく、不完全な状態から始め、自分たちがルールの必要性を感じ、ルールを考え、それを守って遊ぶという経験から、ルールを守ることの必要性を感じ、きまりを守る、という行動につながってほしいと願っています。

小学校の先生から、「園で、紙飛行機を保育室で飛ばしている様子を見たが、学校では、教室では飛ばしてはいけないことが、暗黙のルールとなっている。」との話題があがりました。このように守らなくてはならない（暗黙）ルールがいくつかあるとのこと、児童からそのことを守る意味について問われないか聞いたところ、問われないこともあれば、なぜかと問われることもあるとのことでした。時間割の中で、授業を進める小学校では、限られた時間の中で話し合い、決めていく困難さはあると思うが、児童とともに考えていくことはできないものかと尋ねたところ、校長先生から、学校でできることは変えていきたい、という前向きなご意見もいただきました。

そして、県教育委員会の担当者より、ルールとは、そもそも「みんなが楽しく生活するための決め事。なぜ、このルールが必要なのか、どうしたらよいか、教師・保育者が伝えたり、一緒に考えたりしながら、一つ一つみんなで作りに上げていくことが大切。」とおっしゃっていました。

研究会自体も限られた時間の中で行っていますが、表面的なことではなく、お互いが、本音で意見を交わしあい、深い部分まで話し合いができ、教育委員会等からも助言をいただき、本年度を締めくくりました。来年度も、引き続き進めていきますので、また様子をお伝えします。

(文責：中田)

《0・1・2 歳児》

春のような天気から一転、肌寒い日が戻ってきましたね。寒暖の差も激しいこの時期、体調管理に気を付けながら過ごしていきたいものです。ちなみに、花粉症の私は、先日の暖かい日から症状が出始めました。花粉症の皆さん、頑張って乗り切っていきましょう！！

さて、先日2月13日（土）に、感染対策を講じながら3-5歳児クラスのキッズフェスティバルが行なわれました。

先月号で、中田園長から各学年の活動についてお知らせしましたが、キッズフェスティバル当日、3歳児クラスでは、好きな手遊びを楽しんだあと、一人ひとりの素敵なおとこを担任から話してもらいました。みんなから注目され、自分を見てもらう。それは、この時期、他者との違いに気付き始め、自我を発見していきます。どの子も、担任から自分のことを話してもらう時には、恥ずかしそうな、嬉しそうな、とても良い表情でした。

4歳児クラスでは、ちょっと難しいことにもチャレンジ、こまや縄跳び、あやとりやフラフープなどそれぞれが頑張る姿を披露しました！！当日の舞台上では、日々の修行の成果を発揮し、その表情には自信が満ち溢れていました。こうした自信が自己肯定感につながっていくのですね。

そして5歳児クラスでは、クラスみんなで作った劇を披露。どの子も大きな声でセリフを言う姿に、さすがもり組と感心しきりでした。当日を迎えるまでには、どんな劇にしようか？と言うところから自分達で考えたり、仲間同士で意見をぶつけ合い、どうしたらよいか、お互いが納得する方法を見出したり・・・自分も相手も大切にできるようになっていきました。

当日、こうした子ども達の姿を見ていた、何人かのメイプルキッズ保育者も感無量の様子で、「あんなに小さかったのに、みんなたくましく、大きくなったなあ」と目を潤ませていました。

キッズフェスティバル後も、見せっこを楽しんだり、新たな修行にチャレンジしたり・・・、どの学年も余韻を楽しんでいます。



よくこのコラムにも登場させていますが、私には娘と息子がいます。小さい頃から同じように接してきたつもりですが、全く違います。園の子どもたちも、当たり前ですが一人ひとり違っていています。その違いは、所謂「気質」「性格」「嗜好性」から生まれると考えられているようです。心理学的に、「気質」は、持って生まれたもので、一生変わらないといえるそうです。逆に「性格」は環境の影響を受け、後天的に形成されます。「嗜好性」は好みといえるでしょう。私が小さかった頃には、今で言うゲーム機等もなかった時代なので、私は、ゲーム等に興味がありません。時代背景などが影響してくることもあるようです。



エルンスト・クレッチマーという精神科医は、人の気質を主に3つに分類しています。

- ・循環型気質・・・社交的な時と、静かさを好む時が交互に存在する
- ・分類型気質・・・社交的ではない。敏感さと鈍感さをあわせ持つ
- ・粘着型気質・・・几帳面で凝り性である

(これらの気質は、大人には当てはまることが多いでしょうが、子どもの場合は、成長の途中であり、必ずしも当てはまる訳ではないようです。)

子どもの気質を考える時には、いくつかの見方が参考になります。

例えば、外交的な子は、好奇心旺盛だったり、積極的に人と関わったり、また、内向的な子は、一人で過ごすことが好きだったり、こつこつとものごとを成し遂げようとしたり・・・それぞれ特徴があることでしょう。この外向性、内向性は、赤ちゃんの頃から表れると言われています。確かにメイプルキッズの子たちを見ても、その気質は様々なような気がします。

他にも、敏感な子や従順な子、慎重な子・・・などなど

もって生まれたものを変えることは難しいかもしれませんが、私達保育者が、その気質にあった働きかけや配慮をしていくことも必要だと思っています。気質を活かしながら、その子らしさが発揮できるよう関わっていきたいと思います。



余談ですが・・・私はよく主人から「がしょうき」だと言われる。佐野出身の私は意味が分かりませんでした。「がしょうき」とは、群馬県の方言らしく、雑とか大雑把という意味らしいのですが、この「がしょうき」なのも私の気質なのでしょうか・・・?(笑)

※参考文献:「子どもの発達とレジリエンス保育の本」湯汲英史著

(文責:新井)